

先日、事業所報告を提出しました。その総括より抜粋します。

「平成の終わりは、災害の多い年だった。西日本豪雨、その後の猛暑、インフルエンザが猛威を振るう冬の訪れと、過酷な環境は高齢者を苦しめ、3名の方が鬼籍に入った。いずれもいわゆる「老衰」だが、弱る過程には精神の混乱も見られ、刻一刻と変化する容態に気が抜けなかった。職員は愚痴をこぼさずよく付き合ってくれたと感謝している。

吾も紅の特徴として、認知症状の強い方が集まっていることがあげられる。スウェーデン並みに、一日6回食（以上）摂る方もいる。よく食べ、よく外に出て動くので身体はお元気である。その中で、利用者の心の充足を求め、職員は認知症介護のプロを目指して努力してきた。治療するはずの病院で食べられず動けず瀕死になったSさん。吾も紅では、せんべいを食べビールを飲んでいて。戻ってきて以前のような生活を送ると元気になったSさんを見て、高齢の方にとって、病を治すより心を癒すことが大切なのだと思う。自分の生である以上、自分の自由にできて当然だと思う。要介護者だからといって、自らの意志を捨て、他人に全てを委ねなければならない道理はない。高齢者はみんなぎりぎりのところに生きている。何かの拍子に、転がり落ちるように悪化することもあり得るのである。誰もが自由に、残りの人生を謳歌できる、吾も紅がそんな場所となるように今後も努力していきたい。」

このような反省の元、今年の重点目標が立てられました。今年の吾も紅の目標は次の三点です。

- 1・認知症ケアのプロを目指す…パーソンセンタードケア、ユマニチュードに基づく介護実践。症状別での対応の仕方を研究・実行する。事例発表会への積極的参加。職員研修の推進。
- 2・文化活動の充実…食事、運動、環境を三大「文化活動」ととらえ、それぞれ担当を置いて日々の楽しみ作りを行う。
- 3・他職種・本人・家族との協同…利用からいのちの終わりの全体を見つめ、他職種、家族が協力して適切なケアを行う。本人理解に努め、本人主体のケアを考える。定期的なバザー、介護相談室、認知症講座などを開き、また事業所交流を開催して地域連携に努める。

2番に基づき、早速4月より食事班・運動班・環境班に分かれて活動を行っています。今年はどうな報告ができるか、お楽しみに！

